

愛知県アレルギー疾患医療拠点病院実績報告書

病院名：藤田医科大学病院

愛知県アレルギー疾患医療拠点病院設置要綱に基づき、下記のとおり報告します。(令和6年5月1日現在)

1. 病院の機能及び医師等の配置

項目	該当
一般社団法人日本アレルギー学会の認定教育施設であること	○
内科、小児科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科領域の診療科が全て設置され、その医師が常勤していること、または、愛知県における小児アレルギー疾患医療の中心的な役割を担っていること	○
アレルギー疾患に関する専門的な知識と技能を有する薬剤師、看護師、管理栄養士等が配置されていること	○
〔配置状況〕【薬剤師】小児薬物療法認定薬剤師 2名、【管理栄養士】小児アレルギー学会に参加 1名	

医師の配置	アレルギー学会会員数	うち専門医数	うち指導医数
内科	16	6	4
小児科	6	1	1
皮膚科	3	2	1
眼科	0	0	0
耳鼻いんこう科	1	1	1

2. アレルギー疾患に関する「情報提供」「人材育成」「学校、児童福祉施設等におけるアレルギー疾患対応への助言、指導」の取組

	実績 (令和5年度)			今後の予定 (令和6年度)		
	診療科	対象者	内容	診療科	対象者	内容
情報提供 講演会等	内科,耳鼻科,小児科,皮膚科,眼科など	医師、看護師、薬剤師、学生	2023年4月12日 EGPA Management Seminar in Aichiにて内科、耳鼻科、皮膚科などに関わる血管炎の勉強会をハイブリッドで行った。49名参加			
	内科,皮膚科など	医師、看護師、薬剤師	2023年9月8日 IP Next Generation Seminarにて複数科に関わる間質性肺炎の勉強会をハイブリッドで行った。16名参加。			
	内科	医師、看護師、薬剤師	2024年3月7日東海喘息研究会にて気管支喘息の勉強会を行った。参加者26名。	内科	医師、看護師、薬剤師、	2024年9月25日東海喘息研究会を当科が主体となって行う予定である。
	小児科	一般市民	名古屋市と協力し「ぜん息児のためのおやこ教室」現地70名	小児科	一般市民	名古屋市と協力し「おやこぜん息」教室 現地90名
	耳鼻科	医師、薬剤師、気象予報士など	東海花粉症花粉症研究会(1回/年、30名程度)、スギ・ヒノキ科花粉飛散情報の提供	耳鼻科	医師、薬剤師、気象予報士など	東海花粉症花粉症研究会(1回/年、30名程度)、スギ・ヒノキ科花粉飛散情報の提供
	耳鼻科	近隣開業医	病診連携の会(2回/年、30名程度)、抗抗体製剤についての説明	耳鼻科	近隣開業医	病診連携の会(2回/年、30名程度)、免疫療法、抗抗体製剤について
				耳鼻科	アレルギー研究会	好酸球性副鼻腔炎の抗抗体製剤について(1回/年)
	皮膚科	医師	福岡地区皮膚科医会学術講演会でアトピー性皮膚炎の治療についての講演を行った。20名	皮膚科	医師	令和6年度第1回学校保健講演会(名古屋市医師会)でアトピー性皮膚炎についての講演を行う。
	皮膚科	医師	東北道皮膚科医会でアトピー性皮膚炎の治療についての講演を行った。20名	皮膚科	小中学校教員	令和6年度第1回学校保健講演会(名古屋市医師会)でアトピー性皮膚炎についての講演を行う。
	皮膚科	医師	第449回緑医学研究会(名古屋市緑区)でアトピー性皮膚炎についての講演を行った。20名	皮膚科	薬剤師	第638回岡崎薬剤師会研修会でアトピー性皮膚炎についての講演を行う。

	他	内科	一般住民	ホームページ上で1) 重症喘息に対する気管支サーモプラスティの研究 2) 気管支喘息症例におけるメサコリン気道過敏性試験の検討などについて当施設でのアレルギー研究に関する情報提供を行っている(倫理委員会承認のもの)	内科	一般住民	今後も継続予定である
人材育成	研修会等	内科	学生	アレルギーに興味のある学生を対象に月に1回程度で勉強会を行っている	内科	学生	今後も継続予定である
		内科	医師(院内、院外)	数カ月に一度、間質性肺炎の病理検討会を行っている	内科	医師(院内、院外)	今後も継続予定である
		小児科	学校教員	エピペン講習会(16回 630名)	小児科	学校教員	エピペン講習会(15回 300名)
		小児科	学校教員	アレルギー対応指導者講習会(4回 30名)	小児科	学校教員	アレルギー対応指導者講習会(3回 30名)
助言指導	内科	名古屋市	名古屋市公害認定審査会の委員	内科	名古屋市	名古屋市公害認定審査会の委員継続	
	内科	愛知県	愛知県公害認定審査会の委員	内科	愛知県	愛知県公害認定審査会の委員継続	
	小児科	一般市民	名古屋市緑保健センターでのアレルギー相談(年6回)	小児科	小児科	名古屋市緑保健センターでのアレルギー相談(年4回)	
	耳鼻科	気象予報士	日本気象協会へのスギ・ヒノキ科花粉飛散数の提供、花粉飛散数予測についての助言	耳鼻科	気象予報士	日本気象協会へのスギ・ヒノキ科花粉飛散数の提供、花粉飛散数予測についての助言	

3. アレルギー疾患における「診療」「研究」の取組

	実績(令和5年度)	今後の予定(令和6年度)
診療	<ul style="list-style-type: none"> 気管支喘息の重篤発作の症例においても ER を経由し集中治療室にて入院加療を行い、重篤な場合でも迅速に対応している。 アナフィラキシーについては救急救命センターを中心に迅速な対応を行っている。 重症喘息患者症で気管支サーモプラスティや生物学的注射製剤を使用する場合はカンファレンスを行い適切な治療法を検討している 間質性肺炎(びまん性肺疾患)では可能な限り、病態についてカンファレンスを行い、今後の方針、治療法などに関し検討している 気管支喘息は耳鼻科的合併症や皮膚科的合併症が多いため、耳鼻科、皮膚科と相談しながら診療している 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も 救急部門と連携し診療にあたっていく。 今後も 救急部門と連携し診療にあたっていく。 今後も継続予定である 今後も複数科との関連性が考えられる場合はより積極的に相談し治療を行っていく。 今後も複数科との関連性が考えられる場合はより積極的に相談し治療を行っていく。
	重症な食物アレルギー児に対して、患者や家族の QOL を改善させるための食事指導を積極的に行い、早期の寛解に導くための診療を進めている。	患者の状態に応じた食物アレルギーの食事指導、治療を行えるように様々な治療の選択肢を作り、患者、家族の QOL を向上し、治癒に導く指導を行っていく。
	アレルギー性結膜炎、アトピー性網膜剥離の診療を行い、必要に応じてカンファレンスで検討を行った。	アレルギー性結膜炎、アトピー性網膜剥離の診療を継続する。
	アトピー性皮膚炎の中等症以上の患者に、JAK 阻害薬・生物学的製剤の導入など積極的に行ってきた。	引き続き、アトピー性皮膚炎の中等症以上の患者に、JAK 阻害薬・生物学的製剤の導入など積極的に行っていく。

	アレルギー外来にてアレルギー免疫療法や重症アレルギー性鼻炎患者のコントロール（毎週土曜日）	アレルギー外来にてアレルギー免疫療法や重症アレルギー性鼻炎患者のコントロール（毎週土曜日）
研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ NSAIDs 過敏喘息（アスピリン喘息）の臨床背景の検討 ・ 間質性肺炎（びまん性肺疾患）の臨床背景、画像、病理学的検討 ・ ANCA 関連血管炎に関する肺線維症に関する研究を行っている。 ・ 当院では気管支サーモプラスチックを施行しており、「Safety and efficacy of bronchial thermoplasty in refractory asthma with severe obstructive respiratory dysfunction」というタイトルで Therapeutic Advances in Respiratory Disease に投稿中。（IF：5.1） ・ 基礎研究として、「健常／喘息患者細胞を用いた三次元細胞モデルによる気道リモデリングの検証と薬効評価」を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 論文化を目指している ・ 継続していく ・ 論文化を目指している
	重症食物アレルギー患者に対し、微量のアレルゲン粉末を用いた治療や、鶏卵の舌下免疫療法などの新規治療の研究にも積極的に取り組んできた。	食品を扱う企業とも連携し、重症食物アレルギー患者に対する様々な手法からの治療アプローチができるよう共同研究を行っていく。
	スギ・ヒノキ科花粉症における咽喉頭症状、スギ花粉症におけるオマリズマブ（商品名：ゾレア R）の効果の調査－鼻症状と咽喉頭症状を中心に－	スギ・ヒノキ科花粉症における咽喉頭症状、スギ花粉症におけるオマリズマブ（商品名：ゾレア R）の効果の調査－鼻症状と咽喉頭症状を中心に－
	PACI ON study（他施設共同研究、主研究施設：成育医療センター）	PACI ON study（他施設共同研究、主研究施設：成育医療センター）

4. アレルギー疾患に関する特記事項（独自の取り組み）

- ・ 当院ではすべての科で軽症から集中治療質管理が必要な症例を 24 時間体制で受け入れており、今後も継続することで県民の生活の質の向上を図っていく
- ・ 当院では内科系、外科系、放射線科、病理診断科、基礎医学系との定期的なカンファレンスを行っており、診療科を横断してアレルギー・免疫に関する知見を病院全体で深化させ、積極的な情報提供を行い県民の生活の質の向上を図っていく
- ・ 地域の病院や他の拠点病院と連携しつつ、県内全域の医師や医療従事者に対しての人材育成を引き続き行っていく
- ・ 当院では基礎医学系との共同研究も充実しており引き続き継続し、当科が主体として行っている「3次元構造の気管支上皮を作成しアレルギー・免疫の病態」を探索していく
- ・ 当院では気管支喘息やアレルギー性鼻炎などの典型的なアレルギー疾患から、難治性免疫系疾患である間質性肺炎も得意としており診療科を横断して最新の知見を病院全体で深化させ、積極的な情報提供を行い県民の生活の質の向上を図っていく。